

平成26年度 長野市地域包括支援センター運営協議会 報告書

日 時	平成26年7月9日(水) 午後2時00分～4時20分
会 場	長野市保健所 2階 会議室B
出席者	委員14人(欠席 重倉委員、金井委員)、事務局15人
次 第	<p>1 開 会 介護保険課 戸谷補佐</p> <p>2 委員委嘱          委嘱期間 26年4月1日～29年3月31日          委員名簿 別添参照</p> <p>3 あいさつ 寺澤保健福祉部長</p> <p>4 委員自己紹介</p> <p>5 会長及び副会長選出          会長 小山 順子 (長野県社会福祉士会)          副会長 金井 隆子 (長野市社会福祉協議会)</p> <p>6 協議事項          (1) 平成25年度事業報告・収支決算について          (2) 平成25年度事業内容の評価について          (3) 平成26年度事業計画・収支予算について          説明：中部地域包括支援センター 古田所長          介護保険課 戸谷補佐 (資料1～資料4)          (4) 介護予防支援業務の指定居宅介護支援事業所への委託について          説明：中部地域包括支援センター 赤羽係長(資料5)          (5) 地域包括支援センター委託時期について          協議内容については、「特定の法人に関する情報で、公開することにより、当該法人の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるもの」であるため、非公開          説明：介護保険課 戸谷補佐(資料6)          (6) 直営センターの運営について          協議内容については、「市の内部における審議、検討又は協議に関する情報であって、公開することにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ、不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれ又は特定の者に不当に利益を与え、若しくは不利益を及ぼすおそれがあるもの」であるため、非公開          説明：介護保険課 戸谷補佐          (7) その他「シルバー安心安全カルテ」の長野市版作成について          説明：介護保険課 戸谷補佐</p> <p>3 閉 会 介護保険課 戸谷補佐</p>

質 疑 応 答 要 旨

	<p>平成25年度事業報告・収支決算について</p> <p>平成25年度事業内容の評価について</p>
委 員 会	<p>資料1の4ページ(4) 認知症高齢者及び家族支援について、認知症患者本人からの相談があったということだが、具体的にどのような相談内容であったか。</p>
事 務 局	<p>もの忘れがひどくなったという相談。5年ほど前までは、認知症か認知症でないかというときに、本人が自ら認知症なのではないかと疑うときは特に問題ないという説明であったが、最近、本人が最初に気づく認知症の入口のMCI(軽度認知障害)についての相談が多い状況である。</p> <p>また、うつ症状が出ている人については、自分が(認知症なのではないか)という不安について、相談されている。</p>
委 員 会	<p>資料2 収支決算について、どういった目的で示されているものなのか</p>
事 務 局	<p>委託の地域包括支援センター(以下「包括」)が健全経営であるかということについて確認いただきたい。</p> <p>委託料の形で、人件費等について長野市から支払いをしていますが、そのほかに、介護予防計画作成収入については、各包括の努力によって、収入額に差が出る。そういったところを踏まえ、収支のバランスが取れているか見ている。</p> <p>ただし、法人全体の中でまかなっている部分もあるため、包括単体で収支完結していないというところで、あくまでバランスの目安としている。</p>
委 員 会	<p>バランスの目安というときに、運営委員として、どこをポイントに見ればよいか</p>
事 務 局	<p>収入合計 支出合計の差引を確認していただき、大きなバランスの変化がないか見ていただきたい。例えば、25年度「博愛の園」については、収支バランスがマイナスとなっているが、理由が、途中で人員を増やしたということがあるため、今年度の予算で人件費分の委託料を増額して対応している。そのあたりを確認していただきたい。</p>
委 員 会	<p>資料1、3ページ(1) 相談支援延べ件数について、24年度に比べて相談件数がかなり伸びている。理由として、高齢者人口6,000人単位ごと包括を整備してきて、相談がしやすくなっているという経過もあると思われるが、中でも、訪問での対応が非常に伸びている。包括の職員にとっても、負担が大きいのと思われる。</p> <p>資料1、6ページ(2) 支援困難事例の対応で、昨年度391件という数字であるが、この件数は、一昨年度と比べてどの程度増えているか伺いたい。</p>
事 務 局	<p>支援困難事例の対応についての集計については、昨年の地域包括支援センター主任ケアマネ部会で、支援困難と思われる内容をカテゴリ分けし、事業所ごとにその項目について、どのくらい相談があったかという拾い出しをしたものになる。あくまで、参考データとし</p>

	<p>での提示である。</p>
委員	<p>今年度以降参考になっていくデータだと思う。</p>
事務局	<p>包括支援センターの事業内容を読むと、「高齢者が、住み慣れた地域で安心して、その人らしい生活を継続するため云々」とある。民生委員と地域包括で会議を設けるなどという報告はあるが、認知症等の相談があったときに、高齢者サービスガイドあるような徘徊に対するサービスや、緊急通報システム等のサービスにつながるような説明の機会があるのかどうか。福祉推進員として、お茶のみサロンも開催してきたが、介護保険のサービス利用をする前の人に、万が一のときに使えるサービスについて、周知していくことが、包括の役割であると思う。役職ついた人だけでなく一般の人にも包括からサービスについて話してくれる機会をもっと設けるべきだと思う。</p>
会長	<p>一市民として、貴重なご意見と承る。事務局で対応をお願いしたい。</p>
委員	<p>資料3の自己評価結果について、自己評価の基準はあるのか</p>
事務局	<p>参考資料2「長野市地域包括支援センター自己評価表」により、基準を設けて評価を行っている。</p>
委員	<p>自己評価を誰が回答しているのか。例えば、各包括の職員一人ひとりが自己評価した上での結果なのか。もしくは、管理者独りの判断による評価なのか。</p>
事務局	<p>事業所ごとに任せているので、あるいは、管理者の判断で評価している事業所もあるかもしれない。</p>
委員	<p>できれば管理者だけの判断ではなく、包括職員一人ひとりが取り組む必要があると思う。それが、事業所の評価にもつながっていくと思う。</p>
事務局	<p>今年度の自己評価については、職員一人ひとりが取り組む形で行っていただくようお願いしていきたい。</p>
委員	<p>自己評価を取り入れるにいたった理由は、事業所ごと自己評価をすることにより、自分たちに足りないところを自覚してもらい、次につなげていくということだと理解しているが、今後もその方法でよいのか再考すべきだと思う。</p> <p>これからは、地域での包括の役割がますます大きくなっていくと考えられる。包括職員の熱意と能力によっては、地域差が出てくると思われる。現に出てきている地域もある。今後は、地域に評価されるというような厳しいことをしなければ、本当の意味での評価にならないのではないかと。</p> <p>地域で活動する居宅支援事業所のケアマネージャー(以下「ケアマネ」)に、自分の地域の包括支援センターでは、こういう相談を受け、こういう活動をしているという実態は届</p>

<p>会 長</p>	<p>いていない現状である。地域のケアマネは、ケアシステムの構築に協力したいと思っても、包括のしている方向が見えないというところがある。そういった意味からも、自己評価という方法について、この方法でよいか検討をしてほしい。</p> <p>提言として、事務局で検討していただきたい。</p> <p>(事務局案どおり承認)</p> <p>平成26年度事業計画・収支予算について (予算について質問なし)</p>
<p>委 員</p>	<p>資料4 地域包括支援センター事業計画について</p> <p>長野市には、昔からの区長会・町内会といった組織があるので、包括支援センターがどのようなことをやっているのか、宣伝する意味で、もっとつながりを持ったらどうか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>現在長野市では、各地域に住民自治協議会（以下「住自協」）を立ち上げ、区長会もその中の構成団体の一つとして活動をいただいている。住自協の中には、地域によって名称は異なるが、福祉部会が設置されており、福祉部会の委員さんと、包括の職員、民生委員さんなどが連携をとり、地域ケア会議を設けている。</p> <p>現在、孤立防止ネットワークについても、そういったメンバーが集まり、ケア会議を開催することで、効果があがっている。</p> <p>長野市の広報については、区長さんをお願いしているので、今後もさらに連携を深めていきたい。</p>
<p>会 長</p>	<p>地域での認知症高齢者(家族)を支える活動への支援について、認知症カフェ設置への取り組みを、「星のさと」「芹田」等で検討されるようだが、現在実際取り組まれている柳原委員に具体的に状況をお聞きしたい。また、包括に対して、要望があったら伺いたい。</p>
<p>委 員</p>	<p>今年の2月からプレで2ヶ月行い、4月から篠ノ井ボランティアセンターで、1ヶ月に1回金曜日に開催している。</p> <p>関わってくれる包括のケアマネさんがサポートに入ってくれて、自分の担当で心配な人の家族を連れてきてくれている。</p> <p>スタッフで活動している人が、答えを出す、相談に乗るということはなく、あくまでも来てくれる人が、気持ちよく自分から話ができるような環境づくりを行っている。</p> <p>先月は、認知症の方ご本人を、施設の方が連れてこられて、皆でお茶を飲んで、話を聞いて、帰るときには、顔の表情が変わって帰っていくところを見て、こういう場を提供する必要性を実感した。</p> <p>家族の中には、「ここは話をしても大丈夫な場所なのか」「自分が話したことが洩れては困る」と心配され、警戒している人もいたが、最近では、涙を流しながら、少しずつ話をされ始め、「もう大丈夫」と元気にお帰りになって行き、連れてこられた民生委員さんも、大変喜んで、連れ出してくれてよかったとおっしゃっていただいた。</p>

	<p>包括職員さんが、交替で来てくれている。先ほどの話のように、民生委員が活動していく中で困っている状況があれば、こういった場を使っていただくのは、とてもよいことだと思うし、あちこちにこのような場所ができることを歓迎する。近くは人の目があり行きづらいが、遠くであれば行けるといふ人もいると思う。</p> <p>「星のさと」も、3ヶ月ほど見学されて、立ち上げの準備ができてきたのではないかな。いろいろなどころで話をさせていただき、新聞報道等も通じて少しずつ認知されてきていると思う。</p> <p>今後の役割、関わり方については、スタッフ自身の研修をしっかりとっていく必要があると思っている。</p>
委員	<p>カフェの運営スタッフには、認知症に詳しい人、知識のある人はいるのか、それとも、ボランティアで話を聞くだけなのか。組織について教えてほしい。</p>
委員	<p>「カフェ」ですから、自由に入出りできる場であり、指導をするということはしていない。来てくれた人が、自分から話せるまでゆっくりお茶を飲んでいただいたり、人の話を聞いたりして、愚痴をこぼせる場所の提供と考えている。</p> <p>認知症の知識が必要というときには、包括につなげていくという姿勢で取り組んでいる。包括の職員も、当番で来てくれており、そういうときの用意はしているが、専門性を必要とする「困った」ということを聞くというより、介護しながら介護者自身のリフレッシュということも含めたそんなお茶のみの場 ということを中心にしている。</p> <p>「来たいときに来て、帰りたいときに帰り、しゃべりたいことをしゃべって帰る」 そういう場作りを心がけている。</p> <p>テーブルをいくつか島に分けて、誰かが話を聞いてあげられるように人を配置するようにしている。</p> <p>とにかく、大勢の人が、関わって、認知症の人が地域で暮らしていただける、家族のこぼしをひろい、次の活動へつなげていければいいと考えている。</p>
会長	<p>地域包括と地域住民にはまだ距離がある。それをつなげてくれる活動であると感じる。今後地域包括がより身近な存在となって、活動をより支援できるような体制になることを期待している。</p> <p>(事務局案どおり承認)</p>
	<p>介護予防支援業務の指定居宅介護支援事業所への委託について</p>
委員	<p>資料5の新規No.3の塩尻市農業協同組合というのは、住所が市外になっているが、ということなのか</p>
事務局	<p>事情で市外、県外に住んでいて、長野市に住民票をおいてある被保険者が、現地で介護保険のサービスを受ける際に現地の居宅介護支援事業所を選定している。</p>

	(事務局案どおり承認)
--	-------------